資料論

社会科教育講座・川岡勉

１．授業の概要

この授業の目的は，資料に関する基本的な認識を深め，それぞれの資料の特質と分析方法について理解するところにある。到達目標として掲げたのは，学問研究における資料の重要性を認識し，それぞれの資料の性格に留意しながら分析を加える力を身につけることである。

関連するＤＰは，共生社会を築くため，地域・福祉・平和に関する幅広い知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している（知識･理解),科学的･実践的な知見に基づいて，多様な社会的問題に柔軟に対応できる高い技術と表現力を身につけている（技能・表現）である。

履修登録をしたのは，人間社会デザインコースの学生が 15 名（すべて２回生)，国際理解教育コースの学生１名（２回生)，法文学部人文学科の学生１名（４回生）の合計 17 名であったが，人間社会デザインコース以外の２名は途中から出席してこなくなった。

授業で取り上げたテーマは，次の通り（イントロダクション及びサマリー等を除く)。

① 文字資料の諸類型
② 地域に残る文字資料を読んでみよう
③ 印刷資料を読んでみよう
④ 画像資料を観察してみよう
⑤ 物質資料（モノ資料）とは何か？
⑥ 石造物を観察してみよう
⑦ 考古資料を見に行こう
⑧ 形をなさない資料（祭りと年中行事）
⑨ 口述資料・聞き取りデータ
⑩ 統計資料の分析と比較検討
⑪ メディアの変容と情報環境

２．授業の進め方

授業の進め方としては，様々なタイプの資料を提示し，それぞれの資料の特性・分析方法・留意点などを考察させた。教員が一方的に解説するのではなく，受講者の意見や気づいた点を発表させながら，双方向的な授業になるように心がけた。

⑦のテーマに関しては，愛媛大学ミュージアムを訪れ，スタッフの吉田広准教授から解説していただきながら，考古資料をはじめ，岩石標本・昆虫標本・企画展示などを見学した。

最後に，授業内容の理解度を確認するために試験を実施し，欠席者からはレポートを提出させて成績評価を行った。

３．授業評価

最後の授業時に授業評価アンケートをとり，欠席者を除く 13 名の学生から回答を得た。

まず，この授業の目的が明確であったかを問うたところ，８名が｢とてもそう思う｣，５名が「ややそう思う」と回答した。授業に対する意欲的・積極的な取り組み状況については，７名が｢とてもそう思う｣，５名が「ややそう思う｣，１名が「あまり思わない」と回答した。授業が有意義であったかを尋ねたところ，９名が｢とてもそう思う｣，４名が「ややそう思う」と回答した。

授業内容に関して記述させたところ，実際に生の資料に触れたり，ミュージアムで見学したりしたことにより，興味がわいた，主体的に取り組めたとする意見が寄せられた。これからの学習や研究，卒業論文などに役に立ちそうだとする感想もあった。資料の特性や分析方法について理解が深まり，自ら分析する力をある程度身につけられたように思うとする感想もあった。

４．授業時間外学習の促進

アンケートで改善すべき点を書かせたところ，受講者それぞれが担当の資料を決めて情報を集める作業を実践してみたかったという声が挙がった。今回の授業は，基本的に授業時間内で資料を提示して考察させるという形であったため,｢授業時間外学習の促進｣という点は十分でなかった。次年度は，学生の声に応えるためにも，予め資料を提示したり，担当者を決めたりして，時間外学習を促す取り組みを強化していくことにしたい。